

令和元年教育委員会 第12回定例会

1 日 時 令和元年12月26日(木) 13時30分開会 15時23分閉会

2 場 所 教育委員会庁舎3階 第1会議室

3 出席委員	教育長	林 秀 樹
	教育委員	笹 谷 純 代
	教育委員	小 澤 倭文夫
	教育委員	荒 田 純 司
	教育委員	常 見 幸 司

4 欠席委員 なし

5 出席職員	教育部長	森 貴 仁
	教育部次長	須 藤 慶 子
	教育部市立学校適正配置担当次長	松 井 宏 幸
	学校教育支援室主幹 (生徒指導・特別支援担当)	大 山 倫 生
	学校教育支援室主幹 (教育課程・研修担当)	谷 口 剛
	学校教育支援室主幹 (学務担当)	吉 田 健 一
	学校教育支援室主幹 (市立学校適正配置担当)	佐々木 雅 一
	美術館主幹	星 田 七 重
	学校給食センター副所長	作 田 敏 春
	教育総務課長	成 田 和 陽
	施設管理課長	伊 藤 雅 浩
	生涯学習課長	山 澤 亮 司
	教育総務課総務係長	安 藤 英 明
	教育総務課総務係	田 中 康 平

6 傍 聴 人 なし

7 議 題

議案第1号 小樽市立学校に入学する学齢児童及び生徒の学校指定に関する規則の一部を改正する規則案

議案第2号 小樽市教育推進計画について

協議第1号 令和元年度教育費補正予算案について

協議第2号 令和2年度教育費予算案について

報告第1号 小樽市成人式について

報告第2号 文化庁メディア芸術祭小樽展の開催について
報告第3号 令和2年度全国学力・学習状況調査について
その他 ・寄附採納について

8 議 事

林教育長 ただ今から、教育委員会第12回定例会を開会いたします。

本日の会議の議事録署名委員に、荒田純司委員を御指名させていただきます。

はじめに、お諮りいたします。協議第1号 令和元年度教育費補正予算案について、及び協議第2号 令和2年度教育費予算案については会議規則第13条第1項第3号により非公開とし、議事録については結果のみ記載することとしまして、最後に審議していただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

各委員 (異議なし)

林教育長 それでは、そのように進めさせていただきます。

それでは、議案第1号 小樽市立学校に入学する学齢児童及び生徒の学校指定に関する規則の一部を改正する規則案について、説明をお願いします。

議案第1号 小樽市立学校に入学する学齢児童及び生徒の学校指定に関する規則の一部を改正する規則案

学校教育支援室主幹(学務担当) 議案第1号 小樽市立学校に入学する学齢児童及び生徒の学校指定に関する規則の一部を改正する規則案について、御説明いたします。

この規則案は、令和2年3月末に豊倉小学校が閉校し、統合校を朝里小学校とすることに伴い、その校区を定めるものであります。校区図は、資料にある別図のとおりとなっております。施行期日は、令和2年4月1日といたしたく、先日の市議会において、豊倉小学校の廃止に係る、小樽市立学校設置条例の一部を改正する条例案が可決されましたので、本日の定例会でこの規則案を提案したものであります。

以上、御審議のほど、よろしく願いいたします。

林教育長 ただ今の説明に関しまして、御意見・御質問等ございますでしょうか。

豊倉小学校の廃止と松ヶ枝中学校の校舎移転の条例、全会一致で議会のほうで承認されましたので、それを受けて今回の規則を改正するというところでございます。

よろしいでしょうか。

各委員 (異議なし)

林教育長 それでは本件を終了させていただきます。

続きまして、議案第2号 小樽市教育推進計画について、説明をお願いします。

議案第2号 小樽市教育推進計画について

教育総務課長 議案第2号 小樽市教育推進計画について御説明いたします。

教育委員会第10回定例会において御協議いただいた計画案について、11月11日から12月10日までパブリックコメントを実施いたしました。また、議会、教育関連審議会や各小中学校へ御意見を伺ったところ、別紙のとおり御意見をいただいたところです。

A4横のペーパーが3種類ありますが、まず、「議会・教育関連審議会からの意見・要望と原課の考え」を御覧いただきたいと思います。こちらの6番・7番、市民にはわかりづらい用語が文章の中に散見されるということで、この部分に解説を付した方がよいのではないかと、という御意見がございました。それに基づきまして、教育推進計画の巻末に用語解説を追加させていただきました。次に8番、スポーツ推進審議会から御意見をいただきまして、指導者の養成研修を盛り込んでほしい、という御意見でした。こちらについては教育推進計画の42ページで「指導者育成をはじめとする研修事業など」という文言を追加しました。次に9番、同じくスポーツ推進審議会からの御意見で、漢字の間違いの御指摘がありまして、「情報教育」となるはずが「情操教育」というふうに記載されておりましたので、こちらを正しく「情報教育」ということで訂正いたしました。これは教育推進計画の4ページにあります。次に12番、同じくスポーツ推進審議会からの御意見ですが、「生活習慣の低下」というのが計画案の文言でしたが、適切な語句を用いてはどうでしょうかという御意見がありましたので、「生活習慣の乱れ」というのが一般的な言葉になるのかなということ、教育推進計画の23ページ5行目になりますが、「生活習慣の乱れ」という文言に訂正をさせていただきました。最後に16番・17番、議会からの御意見です。先の総務常任委員会において質問がございまして、【達成目標】に「部活動指導員の配置率」の追加は可能かという御意見、また、12月に入ってから国の指針でコンピュータの児童生徒一人1台の整備計画が示されたので、目標値を3.0人から1.0人にすべきでは、との御意見をいただきましたので、教育推進計画の29ページの【達成目標】、3行目に部活動指導員の配置割合を0%から100%にする（を加え）、戻りまして27ページ（の【達成目標】）では教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数のところを「3.0人」と書いてあったものを「1.0人」というふうに修正させていただきました。以上、議会それから各種教育関連の審議会からの御意見、17件ございましたが、このうち7件を推進計画に反映させていただきました。

次に、「各小中学校からの意見・要望と原課の考え」を御覧ください。内容としましては、通級指導学級や特別支援学級に関する御意見など、6校から18件、資料のとおり寄せられました。この中で特に教育推進計画に反映させた御意見はございませんでした。

最後に、「パブリックコメントからの意見・要望と原課の考え」を御覧ください。30日間のパブリックコメント実施期間で90件の御意見が寄せられました。御意見の概要につきましては、まず4番、表記が「一人一人」と「一人ひとり」が混在しておりましたので、第7次小樽市総合計画基本計画の表記に準じまして、「一人ひとり」に統一しました。次に12番ですが、主語が子どもに限定されているとの御意見がありました。学校教育・社会教育の包括的な計画ということで、教育推進計画の2ページ、「市民一人ひとりが」に修正しました。

次に79番、子育てに悩む家庭に対して、アウトリーチ型支援も設定してほしいという御意見でした。これについては教育推進計画の23ページ、【現状と課題】に「家庭教育支援チーム」の体制の充実を図り、福祉関係機関との連携を強化する、ということで記載の変更をしました。以上、90件の御意見のうち3件について教育推進計画に反映したところです。これらの御意見を教育推進計画に反映させたものを、今回、最終案として提出いたしました。以上、御審議のほどよろしく願いいたします。

林教育長 　ただ今の説明に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いいたします。
　計画に反映させる部分と、パブリックコメントに対して教育委員会としてこういう考え方を持っていますよという部分と、2通りの整理の仕方があろうかと思えます。推進計画のほうは、取り込めるものについては取り込んでいくというスタンスで入れてきました。あと、これからそれぞれの関係団体とか、パブリックコメントについてはホームページ上で市教委としての考え方ということで出していくという形になろうかと思えますので、特に意見・要望への教育委員会の考え方という辺りが、これでいいかどうか、こういう表現がいいかどうか、という点もあろうかと思うのですけれども、そういうところについては御意見をいただいて整理をしてお送りしていく、というような形になるのかなというふうに思います。

小澤委員 　「パブリックコメントからの意見要望と原課の考え」の4番のところで、「一人一人」を、2つ目の「一人」を平仮名（「ひとり」）に統一するということが示されていますが、これが公表されるとなれば、このパブリックコメントに対する原課の考え方も、「一人一人」は表記を（「一人ひとり」）に統一したほうが良いのかなと思いました。1ページの4番にそれが書かれていて、7ページ一番下（36番）のところの「一人一人」・・・。

林教育長 　ああ、真ん中（34番）のところにも「一人一人」・・・。

小澤委員 　ああ、そうですね。それと10ページ、52番のところ、ここも「児童生徒一人一人」、あと12ページ（63番）にも確かあったと思います。最初の4番は推進計画本体の表記ですが、教育委員会として揃えるということであればこちら（「パブリックコメントからの意見要望と原課の考え」）のほうも揃えたほうが良いのかなという意見です。

林教育長 　言っていること、わかりますね。これ（「一人ひとり」）に統一しますと言っている以上、パブリックコメント（への原課の考え方）で表に出していくというほうも統一したほうがいいのではないですかという御意見です。

教育総務課長 　はい。

小澤委員 　もう1件、内容ではないのですが、本文に※のついた用語と巻末の用語解説を照合してみましたら、（推進計画の）9ページ、「施策項目5 情報教育の充実」の2段落目「実物投影機」に※がついています。それから10ページ、「施策項目6 キャリア教育の充実」も1

段落目の最後「キャリア教育」に※がついていますが、後ろの用語解説に「キャリア教育」と「実物投影機」の項目（解説）が書かれていないように思うのですが、これは付記したほうが良いのではないかと思います。それから併せてキャリア教育のほうなのですが、先ほど言いました10ページに（※）があるのですが、（キャリア教育という用語の）初出は4ページの下の方の「施策の体系」に「6 キャリア教育の充実」があるので、こちらのほうに（※）を付けたほうが良いのかなと私は思いましたけれども、御検討いただければと思います。以上です。

林教育長 貴重な御意見ありがとうございます。そのとおりでぐうの音も出ませんけれども……。そこは修正できますね。
ほか、ございませんでしょうか。

各委員 (なし)

林教育長 よろしいでしょうか。
もし何か気付いたことがあれば後ほどでも結構でございますので、事務局のほうにお知らせいただければと思います。手直しのほうは、何か皆さん方からあればそれに合わせて訂正をするのと、あとは私のほうで責任を持って、今、御意見のあったものを踏まえて修正して決定をしていきたいと思っておりますので、御了承いただけますでしょうか。

各委員 (異議なし)

林教育長 それではそのように、推進計画を策定するということで、進めさせていただきます。いろいろと御協力ありがとうございました。
次に、報告第1号 小樽市成人式について、説明をお願いします。

報告第1号 小樽市成人式について

生涯学習課長 報告第1号 令和2年小樽市成人式について、報告いたします。

開催につきましては、令和2年1月12日（日）の午後2時30分から、小樽市民会館で執り行います。

今回の対象者は平成11年4月2日から平成12年4月1日までに生まれた方で、小樽市に住民登録のある該当者数は957人となっており、昨年より86人減っております。該当の年齢で、仕事や通学などのため市外に住民登録を移した方も参加することができる旨、周知しておりますので、参加見込み数は昨年同様、約1,000人を予定しております。

式典については、2時30分から2時55分までの25分間を予定しています。全体の流れといたしましては、はじめに、開式のことばを成人式運営委員から述べたあと、国歌斉唱、次に、主催者を代表して市長から式辞を述べていただき、議長の祝辞と続き、式典の最後に成人代表による誓いのことばを宣言していただきます。成人代表は、小樽市成人式運営委員

会のメンバーの中から選出し、小樽市立高等看護学院の田口圭奈さんと石畑ヒカルさんの2名が自ら代表に申し出たものであります。式典終了後は、アトラクションとして、抽選会とスライドショーを実施いたします。このほか、祝賀行事として、裏千家淡交会小樽支部によるお茶席と記念写真コーナーを設け、午後4時をもって全ての行事を終えることとなります。

なお、今回も成人式の開催に当たっては、交通安全指導員・小樽ハイヤー協会の協力による交通整理、小樽青年会議所の皆さんによるアトラクション等への協力、えんぴつの会によるあいさつ等の要約筆記、市内の企業からの景品の提供など、多くの企業・団体から、これまで同様、御支援をいただいております。

後ほど、教育委員の皆様方には御案内をさせていただきますが、成人式当日におかれましては、例年、御出席いただき大変ありがとうございます。今回も御出席のほどよろしく願います。

令和2年成人式の開催についての報告は、以上であります。

林教育長 ただ今の報告に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いいたします。

各委員 (なし)

林教育長 よろしいでしょうか。

それでは、(御出席) よろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、報告第2号 文化庁メディア芸術祭小樽展の開催について、説明をお願いします。

報告第2号 文化庁メディア芸術祭小樽展の開催について

生涯学習課長 報告第2号 文化庁メディア芸術祭小樽展の開催について、御報告いたします。

資料を御覧ください。文化庁主催による「文化庁メディア芸術祭小樽展」が、令和2年1月11日から26日の16日間、下記のとおり開催されることとなりました。この事業は、文化庁の主催事業を、札幌のクリプトン・フューチャー・メディア(株)が受託し、企画運営に携わっているものです。

まず、下の囲みの部分を御覧いただきたいのですが、メディア芸術と言うのは、メディアアートや、ゲームなどのエンターテインメント、アニメーション、マンガといった新たな分野のアートで、文化庁は「文化庁メディア芸術祭」という国際的なフェスティバルを開催しまして、全世界から公募された作品の顕彰と、各分野の受賞作品の鑑賞機会の提供を行っております。また、文化庁メディア芸術祭には「地方展」というものがありまして、地方において優れたメディア芸術を鑑賞する機会を提供し、認知度の拡大などを目指したいということで、毎年国内の数都市で地方展が開催されております。令和元年度の地方展は、同時期に開催される長崎展(一般社団法人NHKインターナショナルが提案)と小樽展の2か所の提案が採択されております。

資料の上から改めて御説明しますが、日程につきましては、令和2年1月11日(土)か

ら1月26日(日)の16日間、会場につきましては、地域の人や観光客の回遊性を高めたいという思いもありまして、展示は運河プラザ三番庫、市立小樽文学館、産業会館の3か所に分かれております。主催は文化庁で、企画運営をクリプトン・フューチャー・メディア(株)が受託し、事業費は100%文化庁が負担するものです。また、小樽市と小樽市教育委員会、小樽商工会議所、小樽観光協会が共催者として加わることであります。展示会の内容につきましては、カラーのチラシを御覧ください。運河プラザ三番庫では、「チームラボ」という世界中から展示会のオファーが届くアート集団の作品「百年海図巻」などのメディアアートの展示、市立小樽文学館では、マンガ分野の受賞・入選作品を読むことができる読書ゾーンの設置、産業会館では、受託するクリプトン・フューチャー・メディア(株)が開発した、初音ミク(音作りに携わるソフトウェアとそのキャラクター)関連の展示や、今回エグゼクティブアドバイザーを務めている水口哲也さんという、小樽生まれでゲームの世界では世界中から注目されている方のVR(仮想現実)技術を使ったエンターテインメント分野の展示などが行われます。また、もう一つ上映などの会場となりますマリンホールでは、1月24日(金)と25日(土)に、小樽ロケの「LOVE LETTER」でおなじみの岩井俊二監督や、細田守監督、新海誠監督の長編アニメーション作品が上映されるほか、チラシの裏面に記載されているのですが、1月13日(月)にはシンポジウムが開催されることとなっております。資料に戻りまして、最後にその他ですが、入場料は全て無料となっております。

小樽展で展示、上映する作品について、作家との交渉に時間を要したと聞いておりますが、ようやくこうして作品が固まりましたので、今週、このチラシを市内の小・中・高校生に配布しております。冬休み期間中でもありますので、是非多くの児童・生徒の皆さんにメディア芸術に触れてもらいたいと考えております。また、JR小樽駅や中央バスなどにも御協力をいただきながら、ポスターなどで幅広い皆さんにお越しいただけるよう周知を行ってまいります。

文化庁メディア芸術祭小樽展の開催についての報告は、以上であります。

林教育長 ただ今の報告に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いいたします。

小樽がこの芸術祭に選ばれたということは非常に光栄なことだと思いますけれども、どのくらいの集客力があるのかということでは、興味のある方はたくさんいらっしゃるのか、かなり札幌方面辺りから来られるのかなど。そこら辺、PRが大切になるのかなど思っています。教育委員会が関連する施設も、文学館などで活用されますので、こういう機会を通じて今までにないメディアの良さというものを我々も理解していく必要があるのかなど。文化庁のほうも、メディア芸術というように日本の芸術の中で最先端を行く芸術としてかなり力を入れていますので、そういった意味でも、小樽でやるということに意味があるのと、三番庫だとか産業会館だとか、そういう施設を使ってというのが面白いところで、たぶん長崎あたりは何か文化センターみたいところでやるのかもしれないけど。

よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

林教育長 ぜひ機会があれば皆さん方にも見ていただきたいなと思いますのでよろしく願いいたします。それでは本件を終了いたします。

次に、報告第3号 令和2年度全国学力・学習状況調査について、説明をお願いします。

報告第3号 令和2年度全国学力・学習状況調査について

学校教育支援室主幹（教育課程・研修担当） 報告第3号 令和2年度全国学力・学習状況調査について、御報告いたします。

令和2年度の調査実施日は、4月16日（木）となっており、調査対象は、小学校第6学年と中学校第3学年の全児童生徒、調査内容の教科に関する調査は、国語、算数・数学となっており、これまで同様、生活習慣や学習環境等に関する児童生徒質問紙調査と学校に対する調査も実施されます。今年度の実施要領からの主な変更点としましては、6番目にありますように、経年変化分析調査が加わり、抽出調査により、全国的な学力の状況について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てることを目的として行われます。また、7番目にありますように、抽出した学校で、調査を受けた児童生徒の保護者が対象となる、保護者に対する調査も実施されます。調査の内容は、児童生徒の家庭における状況や、保護者の教育に関する考え方等となっております。なお、抽出される学校については、別途、連絡が来ることとなっております。

令和2年度の調査の実施に当たっては、これまで同様、本調査が円滑かつ確実に実施することができるよう、万全の体制で実施してまいります。

以上でございます。

林教育長 本件に関して、御質問・御意見等ございますでしょうか。

今年度は英語がございましたけど、来年度はないということですね。あと、抽出になるので小樽の学校が入るかどうかわかりませんが、保護者に対する調査も行うみたいですので、結果がどういうふうになるのかというのは興味あるところですね。

そのほかございませんか。よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

林教育長 それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、その他の報告になりますけれども、寄附採納について、説明をお願いします。

その他 寄附採納について

教育総務課長 寄附が5件ございましたので、御報告いたします。

1件目は、^{おくやまあつこ}奥山敦子様から、図書館に対し図書14冊、2万円相当を御寄贈いただきました。奥山様のお母様が小樽在住で図書館をよく利用されているとのことで、日頃の感謝の気持ちを込めて、図書充実のため役立ててほしいと寄附をされました。

2件目は、国際ソロプチミスト小樽様から、12月1日に開催された「チャリティクリスマス集い」の収益金の一部10万円を奨学資金基金に御寄贈いただきました。国際ソロプチミスト小樽様からは、平成11年より御寄附をいただいております、今回で32回目、総額430万円となります。

3件目は、高坂啓子様から小樽市奨学資金基金に10万円を御寄贈いただきました。高坂様からは、平成14年より御寄附をいただいております、今回で23回目、総額は325万円となります。

4件目は、美術品についてですが、市立小樽美術館資料収蔵委員会を経て12月19日に34点、総額1,321万5,000円相当を今年度分の寄附として受け入れることになったものであります。詳細につきましては、美術館の星田主幹から御説明いたします。

美術館主幹 令和元年度の美術館新収蔵品の特徴とその経緯について説明いたします。

今年は開館40周年という節目により収蔵方針にのっとり34点の御寄贈を受けました。40周年の最後を飾る特別展「工藤三郎展」に展示してほしい、また今後直近の開催を検討している「池田良二展」に活用いただきたいなど、御要望も込められたものもございます。件数として多かったのはリスト番号の10番から18番、洋画家石塚常男の油彩が9点、こちらが小樽信用金庫のカレンダーの製作原画などの旧蔵品で新金庫発足のために御寄贈いただくこととなりました。石塚は中村善作なかむらぜんさくの直弟子の一人で、運河で知られた画家で展示の機会も多く期待でき収蔵を喜んでいるところです。一原有徳いちほらありのりが4点、リスト番号の25番から28番、当館は記念ホールがありますので一原のステーションとしてあらゆる研究者やメディアに活用いただくための期待にこたえていく必要があります、可能な限り収蔵していきたいと考えております。その他、大月源二おおつきげんじ、佐藤忠良さとうちゅうりょう、国松登くにまつのぼるなど著名作家の作品もありますが、市民だけではなく全国から、家を整理する必要が生じた際にインターネットで検索されて当館がゆかりの美術館であることを知り、送料込で作品を納めていただいたケースがございます。作品の特徴は、小樽の歴史的な流れが色濃く反映されている、現在の小樽市民が知らないものもあり、トランスポーターなど現在存在していないもの、周囲の景観がすっかり変わってしまったもの、画家たちはその時代の魅力を写し取っているという意味で、大変貴重な作品であります。

11月23日開催の美術館資料収蔵委員会で承認を受けまして、小樽の文化的な奥行きを感じられる優れた美術品であり、北海道美術史を語る上で欠かせない作品という評価をいただきました。総点数34点、評価額1,321万5,000円相当の寄贈となりました。

報告は以上でございます。

教育総務課長 続きまして5件目は、潮陵63期同期会様から小樽市交通災害遺児奨学資金基金に5万7,522円を御寄贈いただきました。今回、高校卒業50年の節目ということで同期会を解散する事となったそうで、精算金全額を御寄附いただくものです。なお、本日午前、教育長室において寄附贈呈式を執り行いました。

報告は以上でございます。

林教育長 　ただ今の報告に関しまして、御質問等ございましたらお願いいたします。
　この石塚常男さんの作品というのは、先ほど信金とか、というお話をしていたけど、そこら辺の話をちょっと教えていただけませんか。

美術館主幹 　一括してお話が出たのは博物館で、石川館長のほうで、その他の資料もあったのだと思いますが、美術館についてはカレンダーの原画を石塚先生に信金として依頼されていて、建物の中で飾られていた作品です。

林教育長 　ああ、そういうことか。
　それならほかに、資料等については博物館のほうで收藏するという形なのですね。

美術館主幹 　はい。

林教育長 　非常に価値の高い石塚先生のは美術館で收藏するということですね。

美術館主幹 　はい。

林教育長 　ほかにございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

各委員 　(なし)

林教育長 　では、本件を終了させていただきます。
　それでは、ただ今から非公開の審議に入りますので、報道関係者及び傍聴者の方、おられましたら、御退席をお願いいたします。

<非公開の審議開始>

協議第1号 令和元年度教育費補正予算案について

教育総務課長と生涯学習課長から、令和元年度教育費補正予算案について説明し、林教育長から質問があったほか、全委員による協議が行われた。

協議第2号 令和2年度教育費予算案について

教育総務課長と施設管理課長から、令和2年度教育費予算案について説明し、林教育長、常見委員、笹谷委員、小澤委員から質問があったほか、全委員による協議が行われた。

<非公開の審議終了>

林教育長 以上で、教育委員会第12回定例会を閉会いたします。